

書名	ハッカーと画家		出版年 (西暦)	2005
著者・編者	Paul Graham	出版社	オーム社	
学部・研究科	理工学研究科		学年	D3 年
皆さんはハッカーについて、コンピュータに関する深い技術を持っている要領者で、他人のパソコンに侵入する危ない人というイメージを持っているのではないのでしょうか?残念! このメディアによって形成されたハッカーのステレオタイプは、実は本質的に間違っているのです。				
実際、ハッカーは画家、作曲家、建築家や作家のように、何か良いもの、クールなもの、美しい物を作る人なのです。画家が思い描いた物を絵筆でキャンバスに描くように、ハッカーは思い描いたデザインをプログラミング言語で実装するのです。この本は私たちに本当のハッカーの姿をかいま見せてくれます。なにより、著者が Paul Graham という LISP (← 最古参のプログラミング言語で今なお現役) ハッカーですから、ハッカーについて触れられたこの本より真実なことはありません。				
今やコンピュータやインターネットは水通や電気のようなインフラになりつつあります。私たちの生活を豊かにする上でコンピュータとその周辺技術は重要な役割を担っています。「Linux」とか「アゲル」と聞いて聞いたことはありませんか? 私たちの目に直接届かない Web の根幹から、Google のサービスのようないち早くを解読するところまで、現実には、様々なところでハッカーが用いられているのです。				
ハッカーは私たちの身近なクリエイターです。本当のハッカーについて少し知ってみませんか? 未来のインフラを支える、あるいは新しいサービス創造するハッカーを志す人、また、その様な人々と仕事を共にするであろう多くの人にはこの本「ハッカーと画家」をお勧めします。				